AMDA ジャーナル ダイジェスト

発　行：2015 年 6 月　No.432　　定価 150 円
発行元：〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
編　集：AMDA ボランティアセンター
ホームページ：http://www.amda.or.jp

ネパール中部地震 被災者に対する緊急医療支援活動

震災直後の街の様子

4 月 25 日 15 時 11 分（現地時間 11 時 56 分）、ネパールの首都カトマンズから北西 77 ｋｍ（北緯 28.16 度、東経 84.72 度）のゴルカ郡をを震源とする、マグニチュード 7.8 の大地震が発生しました。

簡素なレンガ造りや泥などを固めた建物が多く、さらに耐震性のある建物が少なかったため建物の倒壊などによる死者、負傷者が目立ちました。さらに 5 月 12 日には、マグニチュード 7.3 の余震が発生。ネパール国内において約 80 年ぶりの 4 月 25 日の大地震から、少しずつ復興に向けて、立ち上がろうとした矢先、約 2 週間後の大きな余震であったため、被災者の方々の精神的な不安も大きく、さらなる建物の倒壊や土砂崩れによる被害も拡大することとなりました。

余震を含めるこの地震による被害は、死者数は 8702 人、50 万軒を超える建物が全壊し、27 万軒を超える建物が半壊の被害を受けています。（国連発表 6/3）

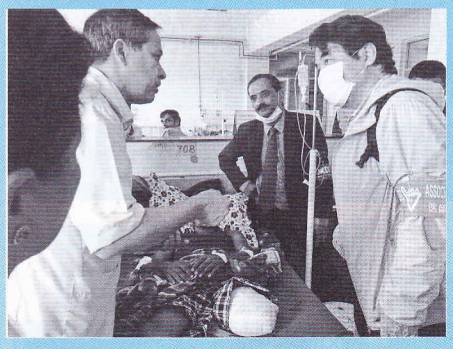
余震後の街の混乱の様子

このような状況を受け、AMDA 本部では AMDA ネパール支部とともに、被災地の支援を決定。発生翌日の 26 日には日本から第 1 次医療チームを派遣しました。さらに AMDA 海外支部およびＧＰＳＰ（世界平和パートナーシップ）メンバーへも支援活動の参加を要請。これにより、日本、インド、バングラデシュ、カナダ、カンボジア、フィリピンのべ 6 カ国 27 人を被災地に派遣し、AMDA ネパール支部とともに医療を中心とした支援活動を行いました。活動に参加したネパール人医療スタッフを合わせると、100 人を超える医療メンバーが、支援活動に参加しました。

震災から 1 か月が経過し、今後は AMDA ネパール支部、トリブバン大学教育病院、ネパール医師会などと連携を取りながらローカルイニシアチブでの支援活動を展開していく予定です。

ネパール中部地震 被災地で感じたこと ～南海トラフに向けての提言～

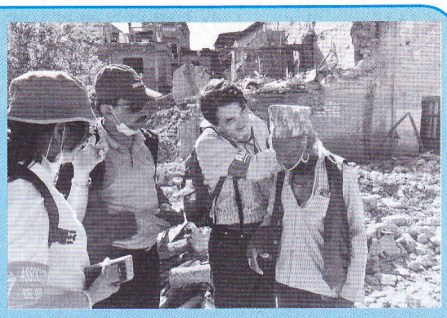
AMDA グループ代表　菅波　茂



トリブバン大学教育病院を訪問

私はネパール地震の発災を海外で知ることとなった。被災地ネパールは AMDA 設立初期の頃から積極的に支部としての活動をしてくれている心強いメンバーの集まりである。苦労を共にしたネパールの医師たちのことが何より心配であった。すぐに日本に居る本部のスタッフが現地との連絡を開始し、一人、また一人と無事が確認でき、喜びと同時に、すぐにでも被災地に駆けつけたい思いに襲われた。それは、AMDA ネパール支部の医師たちが、それぞれ自宅が被災しながらも、傷ついた被災者のために震災当日から懸命に医療支援活動を行っていたからである。

AMDA 本部からもすぐに医療チームを派遣。私自身は 30 日に日本を出発し、被災地に到着した。そして AMDA ネパール支部長が奮闘していたトリブバン大学教育病院で目の当たりにしたのは、日本を含む多くの欧米の医療チームが医療支援のサポートに訪れる中、受け入れを断り、ネパール人医師のみで数多くの外科的手術を成功させていたという事実であった。それだけネパールの医療技術が向上しているのである。ここで特筆すべきは、震災から続く余震で市内でも多くの建物が倒壊の危機にさらされる中、多くの手術が実施できたのは日本の ODA で建てられたトリブバン大学教育病院の施設が余震に耐えうる強固なものであったからだということである。



カトマンズ近郊の街にて診療を行う菅波医師

市街地を後にし、支援が行き届いていない市街地近郊や山間部の被災地へ。AMDA は AMDA ネパール支部の医師とともに巡回診療を実施。震源地に近いこともあるが、レンガ造りの建物は跡形もなくつぶれており、舗装されていない道路に土砂が覆いかぶさり、支援に行くことすら困難な状況。医療だけでなく物資も通信も届かない山間部。この光景から、南海トラフ地震が発生した際に、四国の山間部が置かれる状況を突き付けられた気がした。今回、被災地の混乱の中で確信した。被災地の状況、支援ニーズの把握と役割を調整し、的確に医療チームを受け入れる「コーディネーションセンターの設立」が南海トラフ地震では必須であることを。

ネパール中部地震 被災者に対する緊急医療支援活動

災害発生～医療チーム派遣

震災発災後から AMDA ネパール支部の医師たちは、自宅などが被災しているにも関わらず被災者の医療支援活動をカトマンズ近郊で開始しました。この状況を受け、AMDA では 26 日に第 1 次医療チームを被災地に派遣。現地空港も混乱している状況ではあったものの、AMDA の医療チームは 27 日には予定通り、カトマンズ空港に到着し、早速医療支援活動を実施しました。

ネパール到着直後 27 日の街の様子

AMDA ネパール支部の医師らとともにカトマンズ近郊での医療支援活動を行いました。ライフラインが停止しているだけでなく、多くの建物が倒壊しているためテントもなく、屋外で毛布にくるまって避難している方々が多く、負傷しながらも医療支援を受けられない被災者も多く見られました。その他にもテントもしくはビニールシートの支援が必要だと感じられました。

第 1 次医療派遣チーム
調整員　大政朋子（岡山県在住）
看護師　柴田幸江（岡山県在住）

私達は震災 3 日後のカトマンズに到着しました。今回の大地震に対し、市街地は騒然としていましたが、目についたのはどうしていいかわからず、毛布をもって路上をただ歩く人々の様子でした。大きな地震を初めて経験する人が多く、余震が起こるたびに、不安になり、路上でパニックになっている人も多く見かけました。日本からの医療チームとわかると「日本人は地震に慣れているから、怖くないの？」と声をかけられる場面もありました。「日本人でも地震は怖いんですよ。余震があったら、必ず避難してくださいね。」と声をかけると、ほっとした表情を見せられたのが印象的でした。

チームに分かれて医療支援

ネパールには、AMDA ネパール支部のほかに、AMDA グループ病院として「シッダールタ母と子の病院：通称 AMDA ネパール母と子の病院」「ダマック AMDA 病院」「カトマンズクリニック」の 3 つの医療機関があります。これらの医療機関に所属する医師、看護師のほか AMDA 本部および各支部からの医療チームも加わって、カトマンズ近郊の市町村、トリブバン大学教育病院、震源地に近いゴルカ郡、最大余震の震源地となったシンデゥパルチョク郡などに分かれて医療支援活動を実施しました。

カトマンズ近郊での医療支援

医療支援活動の様子

AMDA ネパール支部の医師を中心として 26 日から医療支援活動を実施。ドビダラ、サンクー、ツゥチェパティ、カブレパランチョクなど 20 以上の地区で 2 週間以上にわたり医療支援活動を実施しました。震災直後は擦過傷、打撲などの患者が多く、骨折などの重症患者はトリブバン大学教育病院などのレントゲン設備、手術設備のある施設に搬送されていました。時間の経過とともに、ストレスによる高血圧や PTSD（心的外傷後ストレス障害）の患者なども目立つようになりました。その他にも呼吸器感染症が多くみられました。

カトマンズ空港や市街地から近いにもかかわらず、支援の行き届いていない地域もあり、医療支援のほか食料などの支援物資の配布も行いました。

トリブバン大学教育病院

ネパール支部長が勤務するトリブバン教育病院を訪れました。そこでは震災直後から骨折、腓骨神経麻痺、切断肢、脊髄損傷などの患者が搬送され、ネパール人医師らにより 1 週間で 350 件以上の手術を行っていました。しかしながら術後のリハビリが追いつかない状況にあることがわかり、AMDA では理学療法士の派遣を行いました。

約 2 週間にわたり、入院患者、外来患者などのべ 263 人の患者のリハビリをサポートすることができました。

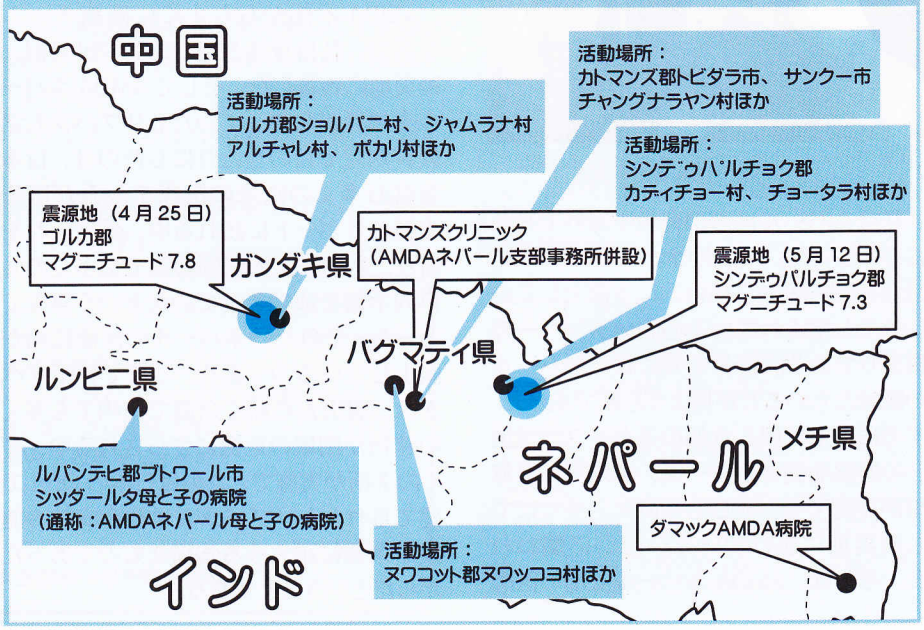
さらに理学療法士の活動を通じて、

医療支援活動の様子

第 5 次医療派遣チーム
理学療法士　西嶋望（ネパール在住）

貴重な経験をさせていただきました。前半は現地のスタッフとの同行で、多くの患者さんを診るようにしました。中盤には、頸髄損傷患者や呼吸器疾患など、肺理学療法の依頼があり、可能な限り引き受けました。後半には、震災による入院患者が退院し、外来も慢性疾患の患者が増えてきました。被災し障がいを負った患者の退院後が心配です。また今回、AMDA が障がい者の避難所への訪問、災害弱者への対処を早めに行った事。これは大きな意味があると思います。本当にありがとうございました。

AMDA関連医療機関と活動地一覧



ネパール中部地震 被災者に対する緊急医療支援活動

身体の不自由な被災者が集まっていたカトマンズ近郊のラリトプールにある避難所への訪問も実現し、健康相談や衛生支援物資の提供を行いました。ここに避難する多くは震災以前から障がいを負っておられましたが、今回の災害を機に障がいを負うことになった被災者も多くなると予想され、今後の受け皿の必要性を感じました。

ラリトプール避難所で支援物資の配布を実施

シンデゥパルチョク郡での医療支援活動

カトマンズからは北東に約 80km の場所にあるシンデゥパルチョク郡が震災から数日経過しても支援が届いていないという情報が入り、AMDA 医療チームは 4 月 29 日に現地に向かいました。到着までの道のりは、地震による山崩れの上に、その後の雨により、ますます山道が壊れて通行が困難な状況にありました。到着早々に診療スペースを設置し、カディチョー村、チョータラ村などで約 20 日間に渡り、巡回診療を実施しました。

シンデゥパルチョク郡は 5 月 12 日に発生した大きな余震の震源地であり、AMDA が医療支援活動を行っていたブースのそばの建物も崩落しました。

診察に訪れる患者は骨折や傷が化膿している患者が多く、2，3 時間を徒歩で AMDA の医療支援場所まで来る患者もいました。中には 13 時間かけて到着したという患者もいました。これは山道が車で通れない状況になっており、受診するためには歩くしか方法がないためです。医療支援のニーズを鑑みダマック AMDA 病院、AMDA ネパール支部、日本からの医療チームの多国籍師団で医療支援を行いました。

医療支援活動の様子

第 4 次医療派遣チーム
医師　高橋宗康（岩手県在住）

今回参加し、ネパールは貧しいいながら優しい心と静謐さを備えていると感じました。それは住民だけではなく、現地 AMDA の医療関係者すべての方に共通するものでした。私はそのようなネパールの方々に長期的に関われればと感じました。

特に岩手県は東日本大震災で世界から多くの支援を頂きました。震災から立ち直りつつある岩手が今度は困難な国に支援に歩み出す時と思います。ぜひ岩手全体でサポートできればと思います。

AMDA の高尚な精神を岩手で伝えてまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

ゴルカ郡での医療支援活動

岡山で技術研修を行ったシャーミラ医師もゴルカ郡での医療支援に参加

震源地に最も近いゴルカ郡レスキュー委員会からの支援要請によりＡＭＤＡネパール子ども病院からショルパニ村に医療チームを派遣しました。27 日の移動時には、土砂崩れなどで、道路が寸断されており、車両で 3 時間の移動の後、徒歩で 5 時間、医薬品などを持って中継地点まで到着し、その先はネパール陸軍のヘリコプターに同乗し被災地に到着。2 週間以上、医療支援活動を継続しました。

復興支援に向けて

被災地の現状を鑑み、AMDA ネパール支部、トリブバン大学教育病院、ネパール医師会と協力する形で被災地の医療支援を継続します。

特に巡回診療などでも目立っていた PTSD の患者に対するサポートを重点的に実施します。また医療の行き届かない山間部の地域への巡回診療なども予定しています。

被災地・母国ネパールのために　第 3 次医療派遣チーム　調整員　シュレスタジョシ・アルチャナ

5 月 1 日に救援活動のために、カトマンズ空港に予定より 1 時間遅れて到着しました。ネパールでは 80 年ぶりに起きた大地震は誰もが想像を絶するもので、病院、学校などで被害が多く、病院内では治療もできず、屋外で治療をする病院も多くあると報道されていました。しかし、私たちが最初に訪れたトリブバン大学教育病院は地震の被害は受けていないために、地震の後に起きた頻繁な余震にも関わらず、院内で 350 人の手術を行っていました。この大学の建物は 1983 年に日本政府の援助によって建てられていて、地震対策をされていたそうです。改めて日本の支援に感謝をしました。

菅波代表とともに調整員兼通訳として被災地の仮設診療所や巡回診療の視察、大学病院などを訪問しました。ネパールでは医師の数も増えつつあり、技術も高まったことが実感できました。しかし、資金的な援助を必要としている現状が確認できたことから AMDA ではその状況を踏まえて、被災地で実施する復興支援としての巡回診療を支援するために資金援助をすることになりました。ネパールで起きた災害をネパール人が乗り越えるための最高の支援だと感じ、私は感謝の気持ちでいっぱいでした。

災害はいつどこで起きるかは分かりません。国によって災害に対する準備の差があったり、災害支援活動のやり方が違ったりすることは当然だと思います。AMDA が相互扶助の精神に基づき、災害が起きた地域や国のことを配慮しながら行っている緊急医療支援活動はとても重要で、今後長いスパンで被災地をサポートしていくためには大切なことだと改めて感じました。

私は、2013 年に岡山県立大学に入学してから、AMDA の活動に間接的に関わり、現在 AMDA でインターンとしてスタートを切ったばかりです。

今回のネパールで起きた大地震に対する緊急支援活動に参加してくださった医療従事者の皆さん、そして活動を支援していただいた皆様に心より感謝を申し上げたいと思います。また、母国が大変な時に自分が何もできないと思っていた私に、AMDA が私に大きな役割を下さったことに心から感謝します。そして何より私は、AMDA の一員として働けたことを誇りに思います。

東日本復興支援事業

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に対して、AMDA は翌日から医療チームを被災地に派遣し、緊急医療支援を開始。約 50 日の緊急支援活動を経て、2011 年 5 月 1 日より復興支援活動を行っています。2014 年 3 月までを「第 1 次復興支援 3 か年事業」として「医療・健康」「教育」「生活」を柱としたさまざまな復興支援事業を行いました。現在、2014 年 3 月から「第 2 次復興支援 3 か年事業」として、復興支援事業を継続しています。

鍼灸治療支援活動（岩手県上閉伊郡大槌町、宮城県石巻市雄勝町）

災害発生後の、緊急期での非常にニーズの高かった鍼灸治療を、復興支援事業の一つに位置づけ、震災直後からそれぞれ地元の鍼灸師を雇用して、鍼灸治療支援活動を実施してきました。

岩手県大槌町と宮城県石巻市雄勝町の 2 か所で実施してきましたが、第 2 次復興支援 3 か年事業期に入るタイミングで、活動を地元の鍼灸師に引き継ぐ形で活動を終了しています。

月別鍼灸治療のべ患者数

（2013 /12 から 2014 /5 月末まで）

大槌町	12 月	139 人
	1 月	104 人
	2 月	96 人
	3 月	122 人
	4 月	95 人
	5 月	88 人

雄勝町	12 月	27 人（4 日）
	1 月	20 人（4 日）
	2 月	23 人（4 日）
	3 月	20 人（4 日）

被災地間相互交流事業　～第 9 回復興グルメＦ－１大会　in 大槌 ～

大会は大成功に終わりました！

多くの人でにぎわった会場の様子

三陸沿岸部一帯の商店街をはじめとした団体が復興に向けて一丸となり、東北の現状および情報を全国的に発信するとともに、情報や知恵を共有することで新たな復興への協力体制を形成することを目的として 2013 年 1 月からスタートした「復興グルメＦ－１大会」が、2015 年 4 月に第 9 回大会を開催しました。

会場となったのは岩手県上閉伊郡大槌町 福幸きらり商店街。

福幸きらり商店街（大槌町）と南町紫市場商店街（気仙沼）の商店街交流がきっかけとなって復興グルメ F-1 大会が生まれたこともあり、記念すべき大会となりました。

大会当日は、朝早くから大勢のお客様が詰めかけ、予想を上回る約 3000 人が来場しました。大会開催以来、最北での開催となりましたが福島、宮城、岩手 3 県から 13 チームがエントリーし、それぞれ工夫を凝らしたグルメを提供しました。さらに伝統芸能盛んな大槌町らしく、ステージでは各団体による伝統芸能が披露され、各地のゆるキャラとともに会場を盛り上げました。

地元チームは優勝を逃したものの、釜石市から出店した「鵜！はまなす商店街」の『釜石バーガー』が初優勝を飾りました。記念すべき第 10 回大会は、第 1 回大会の会場となった気仙沼復興商店街南町紫市場で 7 月 19 日に開催します。

岡山からもボランティアへ！

活動を終えて参加者の皆さんと

復興グルメＦ－１大会の開催に合わせて、6 回目となるボランティアバスを岡山から運行しました。これは震災から 4 年が経過し、震災のことが風化しつつある中、被災地の現状を知り、復興に向けて歩んでいる方々の声を聴くとともに、東北の皆さんと一緒にイベント開催し、盛り上げることを目的としています。これまでのバス運行を通じて、岡山と東北の方々の強い絆が生まれていることを感じています。次回、ボランティアバスの運行は 7 月 17 日～ 20 日で気仙沼に向けて運行します。参加申込、お問い合わせは AMDA まで。

教育支援プログラム：AMDA 東日本国際奨学金

東北の復興を担う世代の支援として「AMDA 東日本国際奨学金」を実施しています。これは原則として被災地で将来医療従事者を目指す学生を対象に年間 18 万円 (15,000 円／月）を支給するもので、返済の必要はありません。

2014 年度は 28 人へ奨学金の支給を行うことができ、2011 年の制度開始からこれまでの、のべ 281 人に奨学金の支給を行いました。

おかげさまをもちまして、2015 年度も、新たな奨学生の追加募集を行うことが決定しました。現在対象となる学校との調整に入っています。

◆東日本大震災復興支援活動の軌跡◆（2014 年 12 月～ 2015 年 5 月）

2014/12/22	震災ホームレス支援 AMDA 支援農場お米発送①
2015/1/31	第 2 回被災地間相互交流フォーラム 顔合わせ（岡山市）
2015/2/1	第 2 回被災地間相互交流フォーラム開催（岡山市）
2015/2/18	震災ホームレス支援 AMDA 支援農場お米発送②
2015/3/19	おかやまコープボランティア受け入れ（大槌町）
2015/3/23	震災ホームレス支援 AMDA 支援農場お米発送③
2015/4/10-4/13	Ｆ－１グルメボランティアバスツアー（岡山発着 岩手県大槌町）
2015/4/12	第 9 回復興グルメ F-1 大会開催（岩手県大槌町）

事務局からのお知らせとお願い

AMDA は認定 NPO 法人です。いただきましたご寄付は税法上の特例措置の対象になります。ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。

書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

VISA JCB PAYPAL

これまでの AMDA カードのほか、VISA・JCB などのクレジットカードでのご寄附も取扱いできるようになりました。また新たに PAYPAL 決済も導入しております。詳しくは WEB をご覧ください。